

特集① 技術と新発想で市場を生み出す

スポーツを支える 地域企業の技術力

日本だけではなく世界に信頼される製品を生み出す日本のものづくりは、スポーツの世界にも当てはまる。バイオニアとして道を切り開いてきた独自の技術や他分野で培われた技を応用し、アスリートを支える地域企業の卓越した戦略と技術力に迫った。



オートバイのテクノロジーを生かし、車いすの開発・製造へと転身したメーカーがある。日常の車いすのほか、競技用車いすでも国内有数のシェアを誇り、過去8回のパラリンピックにおいて合計122個のメダル獲得にも貢献した。斬新なデザインと優れた機能性で、スポーツ選手の才能を引き出し、車いすの常識を塗り替える。

不慮の事故と先見の明で 車いすメーカーへシフト

江戸時代、徳川家康が鷹狩り目的につくらせたという「御成街道」は、千葉県船橋から東金までの約37kmを結ぶ。真つすぐに造成された街道としても珍しく、今でも街道には徳川家ゆかりの社寺や屋敷跡が点在し、歴史ある古街道として親しまれている。

その街道沿いに本社を構えるのが日本屈指の車いすメーカー「オーエックスエンジニアリング」だ。昭和63年に設立し、当初はオートバイのエンジン開発などに尽力していた。翌年には車いす事業部を設置し、平成7年には車いす・福祉機器専門会社への完全シフトを図る。オートバイと車いす、タイヤがついた乗り物としては同じだが、その用途はあまりにも異なる。

世界へ果敢に挑戦し続ける 競技用車いすのバイオニア

オーエックスエンジニアリング

千葉県千葉市

プロフィール

社名 株式会社オーエックスエンジニアリング
所在地 千葉県千葉市若葉区中田町2186-1
電話 043-228-0777
HP www.oxgroup.co.jp
代表者 石井勝之 代表取締役社長
従業員 38人

「オートバイ好きが集まってできた会社です。この転換で会社を去った人もいましたが、今の経営陣の多くは、この時期を支えてくれた人たちです」

そう語るのは創業者である父、石井重行さんの後を継ぎ、25年に代表取締役就任した石井勝之さんだ。先代社長は、会社設立前からモーターサイクルレースのライダー兼ジャーナリストとして活躍。レースのプロデュース的役割も担いつつ、バイクショップも経営する根っからのバイク好きだった。ところが昭和59年、新車の試乗中に不慮の事故で脊髄を損傷し、車いす

生活を余儀なくされたという。

「私が幼稚園に入るころのことで、車いすではない父の記憶はないですね。既存の車いす、それもオーダーメイドのものを何台も試していたようですが、機能、デザインともに納得がいかず、それから自分の会社でつくろうと。それが車いす事業の始まりです。いい意味でワンマンですね」と苦笑する。

世界トップモデルをつくり 日常用もフルオーダー

さらに、不慮の事故だけが事業



▲先代の意思を継ぐ二代目の石井勝之さん。「機能美を裏付ける試作と改良、データ解析を繰り返し、他社がやらない、やりたがらないことに挑戦し続けます」